

目次

[概要](#)

[ESA のリソース 保存 モードとは何か。](#)

[GUI](#)

[CLI](#)

概要

Cisco E メール セキュリティ アプライアンス (ESA) のどんなリソース 保存 モードであるかこの資料に記述されています。

ESA のリソース 保存 モードとは何か。

リソース 保存 モードは内部 システム資源で短いとき ESA が開始する自己保護モードです。たとえば、RAM 利用がキャパシティの 75% の上で行く場合、AsyncOS はリソース 保存 モードになります。複数のリソースの何れかの不足により、キュー領域を含んで、システムはリソース 保存 モードになります場合があります。

根本的に、リソース 保存 モードは ESA に入って来るメッセージの比率がアプライアンスを去るメッセージの比率より高いとき開始されます。これらのレートの差分がよくあるが、着信レートが時間のまたは巨大な差分による長時間のための配信率を超過する場合、アプライアンスは追加メッセージを保存するリソースを備えていません。

リソース 保存 モードの後ろの目標は配信率が許容率を超過し、システムからメッセージを流出できるように ESA に到達するトラフィックを減速することです。

リソース 保存 モードは電源スイッチではありません。AsyncOS はリソース 保存 モードを開始するとき、次第に着信、発信メッセージ レートを試み、バランスをとりメッセージを受け入れる比率を減速します。極端な場合はリソースが全く枯渇するところで、AsyncOS は新しいメッセージを受け入れることを拒否します。

AsyncOS はリソース 保存 モードを開始するとき、警告メッセージを送信します。alertconfig を使用してアラートを設定する場合、このアラートのコピーを受け取ります。

注 アラートは AsyncOS 正常なメール システムを他のメッセージ デリバリーが停止する時でさえ通過しないし、こうして渡すことができます。AsyncOS がリソース 保存 モードを離れる場合、別のアラートを受け取ります。

GUI と CLI のリソース 保存 モードを表示できます。

GUI

ESA GUI から、監視すべきナビゲートは > システム状態 リソース 保存 モード ステータスを表示するために。

CLI

アプライアンスがリソース 保存 モードを開始したかどうか確かめるために ESA CLI にステータス `detail` コマンドを入力して下さい。

GUI および CLI 両方で表示されるリソース 保存値は 0 と 60 間の値、か第 999 です。0 から 60 まで数は重要なシステム資源の急速な枯渇を防ぐためにシステムがメッセージの承認を減少させている次数を表します。高頻度は減少させた承認の高度を表します。ゼロは承認の低下を、完全な許容率で動作するシステム表しません。リソース 保存値が 999 を示す場合、システムはインジェクトされたメッセージを受け入れません。